

## 平成28年第7回教育委員会会議議事録

### 1 開催日時

平成28年6月21日(火) 午後2時00分～午後3時20分

### 2 開催場所

幕別町役場 3階会議室3-C

### 3 出席者

	教育長	田村 修一
教育委員	教育長職務代理者	小尾 一彦
	委員	瀧本 洋次
	委員	早津 聡子
	委員	國安 環
事務局	教育部長	山岸 伸雄
	学校教育課長	高橋 修二
	生涯学習課長	湯佐 茂雄
	給食センター所長	妹尾 真
	図書館長	林 隆則
	総務係長	白坂 博司
	学校教育係長	守屋 敦史
	学校教育推進員	高橋 康伸
	学校教育推進員	中村 吉昭

### 4 議 事

承認第3号 専決処分した事件の承認について  
(教育支援委員会専門部会部会員の委嘱について)

報告第9号 平成28年度幕別町一般会計補正予算の要求結果について

議案第28号 幕別町小中一貫教育等推進会議設置要綱

議案第29号 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果公表について

議案第30号 要保護・準要保護児童生徒に対する就学援助の認定について

### 5 議事概要 次のとおり

**田村教育長** ただ今から、第7回教育委員会会議を開会いたします。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1、会期の決定についてお諮りいたします。会期は、本日1日限りとすることにご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、会期は本日1日限りと決しました。

次に日程第2、会議録署名委員の指名についてであります。本日の会議録署名委員に、1

番瀧本委員、3番國安委員を指名いたします。

次に日程第3、前回会議の承認であります。第6回教育委員会会議について別紙議事録のとおりでご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、第5回教育委員会会議を承認いたします。

次に日程第4、事務報告についてであります。事務局の方から何かございますか。

(ありません。)

**田村教育長** ないようですので、次に議件に入ります。

日程第5、承認第3号専決処分した事件の承認について(教育支援委員会専門部会部会員の委嘱について)説明を求めます。

**学校教育課長(高橋 修二)** 承認第3号専決処分した事件の承認について(教育支援委員会専門部会部会員の委嘱について)ご説明申し上げます。

議案書の1、2ページをご覧くださいと思います。幕別町教育支援委員会専門部会の部会員の任命について、会議を開く暇がありませんでしたので、平成28年4月1日付けで、専決処分をさせていただきましたので報告をし、承認を求めようとするものでございます。

幕別町教育支援委員会専門部会につきましては、教育支援委員会における児童生徒等の障害の種類、程度の判断に関し、専門部会員が保育所、幼稚園、小学校を訪問し、園児や児童の様子を観察し、児童生徒に係る情報交換を行うなどの相談・調査等を行っております。

この度、4月の人事異動により専門部会員の教諭8人が変更となりましたので、設置条例第7条第2項の規定により、新たに8人を委嘱するものでありますが、各学校からの報告及び承諾が5月下旬となってしまいましたことから、今回、専決処分をさせていただきました。

異動による新たな部会員は、糠内小学校教諭の衣笠真美氏、古舞小学校教諭の中川昭義氏、明倫小学校教諭の高橋政人氏、途別小学校教諭の印牧明美氏、白人小学校教諭の土橋直美氏、札内南小学校教諭の入江広氏、札内北小学校教諭の館田直子氏、忠類小学校教諭の高橋百合子氏であります。

任期は、前任者の残任期間となります平成28年4月1日から平成29年10月31日までであります。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご承認のほどお願い申し上げます。

**田村教育長** 説明が終わりました。質疑はございませんか。

(ありません。)

**田村教育長** 質疑なしと認めます。お諮りいたします。

承認第3号につきまして原案どおり承認することにご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、承認第3号につきましては原案どおり承認いたしました。

次に日程第6、報告第9号平成28年度幕別町一般会計補正予算の要求結果について説明を求めます。

**教育部長(山岸 伸雄)** 報告第9号平成28年度幕別町一般会計補正予算の要求結果についてご説明を申し上げます。

今回の補正予算につきましては、10款教育費の規定予算に558万6千円要望したところでありますが、要望額を10万円増額し、568万6千円としたところであります。

変更となりました予算につきましては、5項社会教育費3目保健体育費150万の要求に対して160万円としたところであります。本予算につきましては、現地時間の平成28年8月5日から21日の17日間にわたり開催されますリオデジャネイロオリンピック大会に本町出身の陸上の福島千里選手、マウンテンバイクの山本幸平選手、女子7人制ラグビーの桑井亜乃選手が出場する可能性があります。このことから、出場が決定した際に、全町的な応援体制を確立するため、リオデジャネイロオリンピック出場選手を応援する会実行委員会を組織し運営す

ることから、補助金を交付するものでございますが、出場選手を応援する垂れ幕の設置箇所の増加等に伴い10万円を追加するものであります。

なお、現在のところ、山本幸平選手は3度目のオリンピック出場が決定しておりますが、福島千里選手、桑井亜乃選手については今月末頃には決定する見込みでございます。

また、ご説明いたしました補正予算の要求結果の変更となった予算以外につきましては、当初の要求どおり認められたところであります。

説明は以上であります。本補正予算は6月8日から開会しております第2回定例会に提出され、議会初日の6月8日に審議され、議決されたところであります。以上報告いたします。

**田村教育長** 説明が終わりました。質疑はございませんか。

(ありません。)

**田村教育長** 質疑なしと認めます。報告第9号につきまして報告のとおりといたします。

次に日程第7、議案第28号幕別町小中一貫教育等推進会議設置要綱について説明を求めます。

**学校教育課長(高橋 修二)** 議案第28号幕別町小中一貫教育等推進会議設置要綱につきまして、ご説明申し上げます。

議案書の4、5ページ及び議案説明資料を合わせてご覧いただきたいと思っております。近年、小学校から中学校へと進学する際の様々な変化から、いじめや不登校など問題行動が急増する、いわゆる「中1ギャップ」の問題が憂慮されておりますことから、平成28年度教育行政執行方針の中で、課題の解決に向けた本町における小中一貫教育等の在り方を探るため、義務教育期間である9年間を見据えた教育活動を行うための仕組みづくり等について、本年度から調査研究を行うとしたところであります。本要綱(案)は、これからの小中一貫教育等の推進にあたり、中心となり検討していく組織として設置するものであります。

議案説明資料の裏面をご覧いただきたいと思っておりますが、全体的なスケジュールといたしましては、平成28年度は、検討組織の立ち上げと先進地の視察研修を実施し、年度内には基本方針を作成したいと考えております。また、あわせて町教育研究所にもご協力をお願いしたいと考えております。

平成29年度は、各中学校区を1つのエリアとして、各エリアにおける検討、実践を進め、あわせて保護者等への説明会も行っていきたいと考えております。

そして、平成30年度には、モデル校を設置し、具体的な実践研究を進めてまいりたいと考えております。

議案書へお戻りいただきたいと思っておりますが、小中一貫教育等推進会議設置要綱(案)についてであります。第1条の目的であります。こちらに記載のとおり中1ギャップ等の課題解決に向けて、小中連携教育をはじめとした小中一貫教育等を推進検討する組織として設置するものでございます。第2条の業務であります。この推進会議を中心として、小中一貫教育等に関する各種検討を進めてまいりたいと考えております。第3条の構成であります。会議の委員は25人以内としたいと考えております。

メンバーといたしましては、中学校区を1つの単位、エリアとして、各エリアより代表する校長先生、教頭先生の計5人を考えております。教諭については、各学校より1人とし、計14人を考えております。保護者の代表3人につきましては、町PTA連合会より会長、副会長等の方々をお願いしたいと考えております。教育委員会職員については、2人としたいと考えております。

第4条の委員の任期であります。説明資料の裏面にあります計画としている期間が、平成28年から30年度でありますことから、3年の任期とさせていただきます。異動等があった場合は、後任の方に前任の方の残任期間をお願いしたいと考えております。

第5条の会長及び副会長の選任方法につきましては、選出されました委員の互選により決定したいと考えております。

第6条の会議につきましては、会長が招集し、会長が議長となり進めたいと考えております。

第7条の庶務につきましては、学校教育課が行います。

第8条のエリア委員会につきましては、推進会議の下に中学校区を1つの単位、エリアとした実施に向けた具体的な調査研究活動を行っていただく組織を考えております。今のところ、エリア委員会の具体的な人数制限は設けておりませんが、今後、どのような形が1番良いのかを、推進会議の中で検討してまいりたいと考えております。

なお、各エリア委員会の委員長は、推進会議の委員である校長先生、教頭先生を想定しておりますが、各学校の教諭を中心にエリア全体で調査研究を進めてまいりたいと考えております。

今後の予定といたしましては、本要綱（案）が承認された後、各学校への教諭の推薦依頼や町PTA連合会へご相談させていただいたうえで、推進会議の構成員を固め、7月下旬には第1回目の推進会議を開催いたしたいと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

**田村教育長** 説明が終わりました。これより質疑をお受けいたします。

**瀧本委員** 中1ギャップと言われる学習面や環境変化による様々な問題があると思いますが、具体的に今現在起きていることや、過去に起きたことの内容で把握しているものがあれば教えていただけますでしょうか。

**学校教育課長（高橋 修二）** 今現在で、小学校から中学校へ上がる際に、教科が算数から数学へ変わり、また、大きく学校の環境も変わったことで不登校になっている生徒がいるという状況であります。環境が変わること、授業の進み具合が変わることなどで非常に難しい問題ですが、今後、幕別町といたしまして、どのようなかたちが良いのか検討していきたいと考えております。

**教育部長（山岸 伸雄）** ただ今説明について、昨年度のデータでございますが、本町で1年間で不登校になった児童生徒が35人となっております。そのうち小学校で不登校になっている児童が3人で、残り32人が中学校で不登校になっている生徒で、そのうち11人が中学1年生という実態であり、小学校から中学校へ上がる際の環境の変化が大きい要因と考えております。具体的には、小学校は教科指導が担任制となっておりますが、中学校では教科担任制となりますことが1番大きいところではと考えております。

ただし、これも様々な要因があり、家庭環境の問題が出てきているという方もおりますし、複数の小学校から中学校へ上がるため、なかなか上手く友人関係を築けないという方も見受けられております。

**瀧本委員** 中学校1年生だけを対象に考えたときに、小中一貫教育の他に何か方法はないのでしょうか。

**教育部長（山岸 伸雄）** 難しいところではありますが、学校によっては、中学校に入ってから振り返り授業を入れながら対策をとるということは現在もしております。しかし、中学校は高校へ向けての学力向上も図らなければならないということもあり、振り返り授業を行うのにも限界があるというのが実態であります。そのような面から、小中一貫、小中連携という中で連続して学習をできるような仕組みづくりが整理されるのではということで、中1ギャップを軽減してまいりたいと考えております。

**学校教育推進員（高橋 康伸）** 異学年での交流をすることによって、上の学年の生徒が下の学年の生徒と人間関係を築きながら集団生活を行うということが大変大きい要素になってくると思います。先ほど、中学校1年生で学習でつまづくことが多くなるという話がありましたが、中学校では学習と部活動へかかる比重が大きくなることで、学習でつまづいたことが非常に大きな要素になってしまうのを連携した教育の中で、小学校と中学校の先生方が共通した目で指導をしていくことが大変重要になってくると考えています。

**田村教育長** その他に質疑はございませんか。

(ありません。)

**田村教育長** 質疑なしと認めます。お諮りいたします。

議案第28号につきまして原案どおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、議案第28号につきましては原案どおり可決いたしました。

次に日程第8、議案第29号平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果公表について説明を求めます。

**学校教育課長(高橋 修二)** 議案第29号平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果公表につきましてご説明申し上げます。

議案書の6ページをご覧くださいと思います。全国学力・学習状況調査の結果公表につきましては、文部科学省において、平成26年度から市町村教育委員会のそれぞれの判断で、当該調査に関わる実施要領に定める配慮事項を考慮したうえで、個々の学校名を明らかにした調査結果の公表を可能にしているところであります。

しかしながら、本町の結果公表につきましては、これにとらわれず、従来からの公表方法と同様に広報を利用して、小学生及び中学生全体の分析や成果を平均正答率等の数字を使わない文章表現で行い、教科ごとの結果につきましても、「理解している」、「身につけている」などの文章で表現をしているところであります。

また、あわせて北海道教育委員会による全国学力・学習状況調査北海道版、結果報告に伴う公表も行っており、平成26年度は国語、算数及び数学、平成27年度については、加えて理科の結果を、それぞれ教科の領域ごとの全国平均を100とした場合の結果を表したグラフ、レーダーチャートにて本町の状況を公表し、また、児童生徒や学校の質問紙調査における分析等の公表を行ったところであります。

なお、町内の各学校では、学校便りなどで周知しておりますが、学力状況調査結果の概要等を公表し、成果と課題について、数値を用いない具体的な改善方法を示しているとともに、学習状況調査結果の概要等についても公表しているところであります。

つきましては、議案にありますように、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果公表は、従来と同様、個々の学校名を明らかにせず、さらに町全体の結果についても、平均正答率等の数値を用いず、文章をもって成績や傾向の説明を行うこととするものであります。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

**小尾委員** 議案書の中にもある「文章をもって成績や傾向の説明を行うこととする」ということですが、保護者の方たちの意向はどのようにとらえられているのでしょうか、例えば、教育委員会で説明しようとするところと、実際に保護者の受け方はどうなのか把握はしているのでしょうか。

**教育部長(山岸 伸雄)** 教育委員会として保護者の意向を伺ってというものは今の段階ではございません。しかし、この学力・学習状況調査については、これまでも文章により公表しておりますが、調査で測定されるのが学習の内容の一部であるということと、小規模の学校における公表であるため、個人が特定される可能性があるということで、保護者においては様々な意見があるとは思いますが、文章により公表しているところであります。

**田村教育長** その他に質疑はございませんか。

(ありません。)

**田村教育長** 質疑なしと認めます。お諮りいたします。

議案第29号につきまして原案どおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、議案第29号につきましては原案どおり可決いたしました。

次に日程第9、議案第30号要保護・準要保護児童生徒に対する就学援助の認定につきまし

ては、プライバシー保護のため秘密会といたします。これにご異議ありませんか。

(異議なし)

**田村教育長** 異議なしと認め、秘密会といたします。

**田村教育長** 秘密会を解きます。

その他に何かございませんか。

**学校教育課長(高橋 修二)** 幕別町後期中等教育を考える懇話会報告書につきまして、ご説明申し上げます。

お手元の別冊の報告書をご覧いただきたいと思います。はじめに、報告書の13ページの幕別町後期中等教育を考える懇話会の協議経過をご覧いただきたいと思います。この幕別町後期中等教育を考える懇話会につきましては、幕別町内に設置されている幕別高校、中札内高等養護幕別分校、江陵高校における中・長期的な展望について検討を行うため、昨年10月に設置されました。

以後、4回にわたる会議の開催、また、町内の全中学生とその保護者へのアンケート調査を実施し、町内中学校卒業生数の今後の推移や進路動向の把握、高校進学に対する意向等を含め、将来の幕別町の高校教育の在り方と方向性について、慎重に審議を行っていただきました。今回、提出いただきました報告書は、これらの会議やアンケート結果を基に、14ページに記載の10人の委員の皆様にご審議いただき、作成したものであります。

報告書の10ページをご覧いただきたいと思いますが、北海道教育委員会が示す「新たな高校教育に関する指針」では、第1学年2学級以下の高校については、原則として再編整備を図るとしているとともに、全日制課程の望ましい学校規模を1学年4学級から8学級としておりますことから、本町の幕別高校と江陵高校の将来に不安が残るところであります。

東部十勝唯一の普通科が設置されている高校を有する本町としては、それら高校及び学科が廃止されることは、本町のみならず地域の高校教育を受ける生徒の選択肢を狭めることにもつながるとのことから、懇話会から教育委員会に対し、4点の意見をいただいたところであります。

1つ目として、北海道教育委員会が、平成18年8月に策定した「新たな高校教育に関する指針」では、全日制課程の高校再編整備の考え方として、第1学年2学級以下の高校については、原則として順次再編整備の対象としているが、幕別高校は、地域社会の維持・発展のため極めて重要な学校であることから、その存続について北海道教育委員会に求めて欲しい。

2つ目として、北海道教育委員会が定める「新たな高校教育に関する指針」では、全日制課程の高校の望ましい学校規模は、1学年4学級から8学級とされており、町内の2つの高校はいずれもこれを下回る規模となっているため、教育環境の充実に向け、幕別町として指針で示す規模の学校の設置を含め、北海道教育委員会に求めるなど、最大限の努力を行って欲しい。

3つ目として、幕別高校については、既に1学級規模となっていることから、幕別高校を含め、本町の高校について、アンケート調査結果を参考に、保護者・生徒が望む一定規模(4間口以上)の普通科を中心とした道立高校を町内に残すとともに、地域社会の要請にかなう高校の設置について幕別町教育委員会として抜本的に検討を行い、北海道教育委員会に対し求めて欲しい。

4つ目として、町内中学校からの進学率を上げるため、町内3高校のPRについて各高校と協力し、積極的に行うとともに、町内各高校に対する支援策の拡充について、幕別町教育委員会として検討して欲しい。

以上4点のご意見をいただいたところであります。説明を終わらせていただきます。

**教育部長(山岸 伸雄)** 先ほど説明がありましたとおり、6月10日に懇話会会長から教育長へ

報告書の提出がありました。その際に、4点ほど口頭でこの報告書の趣旨をふまえ、説明がありましたのでご説明いたします。

まず、会長からでございますが、この報告書のベースとなっているアンケート調査の結果から、高校進学し、学力を向上するという面については大変重要ではありますが、一方で子どもたちは部活動も大変重要な要素としてアンケートの中で答えおります。そのようなことから、高校生活を有意義に過ごすためにも、部活動ができる一定規模の高校の設置について検討していただきたいという考えを示しております。

また、人口2万7千人を超える町として、今後、高校の存続が危うくなる可能性があり、児童生徒数の今後の推移等を見ますと、幕別町においても44人の生徒が減っていくということで、将来的に十勝管内における公立学校の減が予想されることから、本町にあります幕別高校と江陵高校においても北海道が求める1学年が4学級から8学級とならず、高校の存続に影響してくることから大変危惧しており、そうしますと、町外の学校へ通わなければならないため、保護者の負担が超過することから検討していただきたいというお話でした。

また、町内で普通科を設置している幕別高校と江陵高校ですが、東部十勝方面で見ると本町にある2校のみとなっております。池田町にも高校はありますが、商業科の総合学科があるのみとなっております。東十勝方面に普通科を設置する高校がなくなってしまうという面からそれをふまえて検討してほしいとのことでした。

もう1点は、第4回の懇話会において、今後、町内の卒業者数が減少していく中で、将来的に幕別高校と江陵高校が存続していくのは大変厳しい環境下であり、この2校を再編統合して、新たに普通科を中心とした4学級以上の道立高校を本町に設置するのが良いのではないかという発言がありました。

大変難しい問題ではありますが、今後これらを含めて検討していきたいと考えております。なお、教育委員会として考えていなければならない点について、本日の総合教育会議で同様の説明をさせていただき、意見交換をさせていただきます。今後、次回の会議等において、この報告書の趣旨を考え、教育委員会としてどのように対応していくべきか次回以降の教育委員会で検討させていただきたいと考えております。再度、町部局と総合教育会議等を開きまして、町としてこの報告書に対してどのように対応していくのか意思決定をしまいたいと思いますので、次回以降、この報告書の取扱いや考え方、今後の方向について教育委員の皆様のご意見をいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

**田村教育長** その他に質疑はございませんか。

**生涯学習課長（湯佐 茂雄）** 先ほど部長からも補正予算のところでお話がありましたが、リオデジャネイロオリンピック出場選手についてであります。前回の本会議におきまして、お話をさせていただきましたが、その後の経過等につきまして若干お話をさせていただきます。

マウンテンバイクの山本幸平選手につきましては、先ほど部長からもありましたが、報道等で既にご存知かと思いますが、6月9日に公益財団法人日本自転車競技連盟から日本代表選手に決定したことが、正式に発表されております。十勝管内では第1号となるオリンピック出場を決め、さらに北京、ロンドンオリンピックに続く3大会連続出場の偉業を成し遂げられております。

陸上女子短距離の福島千里選手につきましては、6月24日から26日の日本陸上競技選手権大会で8位に入ると確定と前回の本会議でお話をさせていただきましたが、ここで訂正をさせていただきたいと思います。選考基準の中に、派遣設定記録と参加標準記録がありまして、これを満たしていることが選考条件となります。派遣設定記録は、福島選手がお持ちの日本記録よりも良いタイムとなります。その派遣設定記録を満たしている場合は日本選手権で8位以内、もうひとつの参加標準記録を満たしている場合は3位以内に入らなければならないということになります。これを取り違えて前回お話をしてしまいました。福島選手は、参加標準記録の方を満たされておりますので、8位ではなく3位以内に入ることが条件とな

ります。申し訳ありませんがよろしく願いいたします。また、3位以内に入らなくても強化委員会が推薦する参加標準記録を満たした競技者などの選考条件もありますので、一概には日本選手権の結果だけではないということでもあるようであります。

女子7人制ラグビーの桑井亜乃選手につきましては、6月29日に東京で壮行会があり、ご両親も招待されているということでもありますので、この日かその直前に正式な発表があるのではないかとと思われるところであります。

それと出場選手の壮行会につきましては、先ほどの補正予算160万円の補助先であります「2016リオデジャネイロオリンピック出場選手を応援する会実行委員会」が主催いたしますが、現在日程を詰めているところであります。山本選手は世界選手権やワールドカップ、全日本選手権を転戦されたあと長野県の松本で合宿ということで、幕別に来られるスケジュールは取れないとお聞きしております。既に壮行会用のビデオメッセージをいただいております。

福島選手につきましては、日本選手権が終わる6月26日まで、その後のスケジュールは今から立てることができないとお聞きしておりますので、今のところ幕別にこられるかどうか不明という状況であります。桑井選手につきましては、6月30日からの定山溪合宿の途中7月9日から12日まで休みがあり幕別に帰省されるとのことでもあります。この桑井さんのスケジュールにより、今のところ7月12日に壮行会をと考えているところであり、福島さんの方には幕別に帰省されるスケジュールを取られるのであれば、できればこの日にとお願いしているところであります。壮行会の日程が正式に決まりましたら、ホームページや新聞折り込みなどで町民に周知する予定であります。

また、お手元にお配りしておりますが、福島選手が出場する日本陸上競技選手権大会の競技日程があるかと思えます。NHKBSや総合テレビで放映される予定でありますので、ぜひ応援していただければと思えます。以上です。

**田村教育長** その他に何かございませんか。

(ありません。)

**田村教育長** ないようですので、以上をもちまして、本日の日程が全て終了いたしましたので、第7回教育委員会会議を閉じます。